

ヘロデ・アンティパスの死

2022年9月25日

使徒の働き 12章18～25節

序：12章 ヘロデ王（ヘロデ・アンティパスⅠ世、ヘロデ大王の孫）の教会迫害
使徒ヤコブの殉教
使徒ペテロの投獄と救出
ヘロデ王の急死（ユダヤの歴史家ヨセフスの史料）
福音宣教の拡大・進展
バルナバとサウロ、マルコを伴って帰還 ⇒ 13章 伝道旅行へ

I. ペテロの脱獄後の対応

番兵たち大騒ぎ、ヘロデ王激怒、行方を捜すが不明
番兵が手助けし、逃がしたと邪推、彼らを処刑（神による救出は想像もできない）
カイサリアに下り、滞在
祖父のヘロデ大王が建設した市 ローマ帝国のユダヤ地区行政の中心
ローマから派遣された総督・軍隊駐留

II. ヘロデ王の急死

- (1) ツロとシドンは、ユダヤから食糧の供給を受けていた（経済的依存）
- (2) ヘロデ王、立腹（理由は不詳）
- (3) ツロとシドンの人々は王との和解を計る
侍従ブラストに取り入る（賄賂？）
- (4) 和解が成立、記念の式典
- (5) 王のきらびやかな王服、王座（権威を誇示）
- (6) 王の演説（王、支配者として得意の絶頂）
- (7) 会衆の王へのへつらい（王を神格化：人間ではない、神だ！）と熱狂
- (8) 神のさばき
即座に、御使いが王を撃つ（虫に食われて死ぬ）
腹に激痛、寄生虫？ 5日後死亡
あっけない、不名誉な死
原因：神に栄光を帰さなかった（自分に栄光を帰した）
俺が… 私が… 他の人が… 運がよかった
「神の恵みによって」と言わない

cf. ペテロ ⇒ コルネリウス 10・25～26
「私も同じ人間です。」 神格化を拒否

Ⅲ. 神のことばの前進・拡張

権力者の暴虐、人間の現世主義、神への無関心・不信仰にもかかわらず
cf. 6・7 9・31

Ⅳ. バルナバとパウロがアンティオキアに帰還

エルサレム教会に救援の物資（大飢饉）を届ける任務を終えて
マルコ（と呼ばれていたヨハネ）を伴って

彼の母の家に信者たちは集まって祈っていた 12・12

第一回伝道旅行（13章〜）に同行、途中で放棄

パウロとバルナバの反目の原因

後には、パウロの同労者となる

マルコの福音書の記者（ペテロから聞いたイエスの生涯）

Ⅴ. 結び

- (1) 生きて働かれる神の支配（時代、場所、国や民族、状況を越えて）
エリザベス英国女王、安倍晋三元首相
- (2) 神に敵対・挑戦する者は、一時的に隆盛しても、その栄光は長続きしない
自分を神とするので、唯一の真の神は彼をさばく
- (3) 救いにおいても、さばきにおいても、神はご自身が主たることを啓示される
- (4) 福音宣教の前進
エルサレム教会 ⇒ アンティオキア教会
ペテロや12使徒 ⇒ パウロと同労者 と、焦点が移る

Ⅵ. 適用

- (1) 神を認めないと、すべてのことの基・原因を人間に置く
- (2) 人間の罪の最大、大元は高ぶり（造られたものが創造者に成り替わる）
- (3) 悪しき支配者たちのための祈り
 - ①悔い改めて、神を信じるように
 - ②そうしないなら、主がさばいてくださるように
- (4) 聖徒として、神に希望と信頼をおいて、この世における歩みを完うする
忍び寄る高慢、人間的に快い賞賛には要注意（善意？ 悪意？）
神はすべてを見ておられ、聞いておられ、正しく報いてくださる